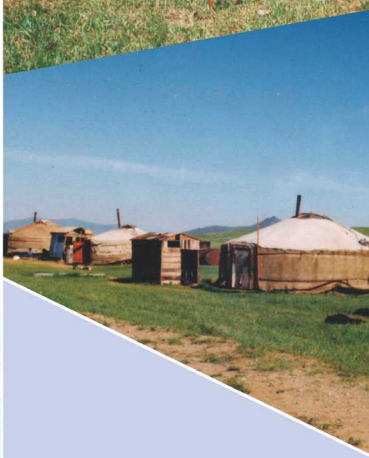
東北大学

東北アジア研究センター

center for northeast asian studies tohoku university

東北アジア研究を学んでみませんか？



CNEAS
Center for Northeast Asian Studies

CNEAS
Center for Northeast Asian Studies

センター長からの

メッセージ

東北アジア研究センターは、日本に隣接する中国や朝鮮半島、モンゴル、ロシアなど北方のアジア世界を総合的に理解することを目的に設立され、文系と理系の研究者が問題意識を共有しながら独自の研究を行なってきました。

現在、本センターでは３つの柱を立て研究を進めています。1つ目は、人類史を東北アジア、あるいはロシア、シベリアなど「地域」という観点で見ていくということです。２つ目は、ロシアや中国など巨大国とその中に存在する少数民族について、共存や保護に関する政策的課題を歴史学や文化人類学を交えて研究する流れです。そして、３つ目は、砂漠化や越境汚染などの環境問題や災害問題を理工学の研究分野とともに研究するというアプローチです。

専門分野を深く掘り下げる研究も重要ですが、それだけでは視野がせまくなりがちです。本センターでは、文理融合の観点から自然科学系と文化系の教員と大学院生が日常的に交流し、共同で東北アジアという地域連携を総合的に捉える研究に取り組んでいます。何故ならばこうした経験こそが次世代を担う研究者にとって、新しい「研究の種の発見力」の育成につながると考えるからです。

センター長
高倉　浩樹

研究組織

- 基礎研究部門
  - ロシア・シベリア研究分野
  - モンゴル・中央アジア研究分野
  - 中国研究分野
  - 日本・朝鮮半島研究分野
  - 地域生態系研究分野
  - 地球化学研究分野
  - 地域計画科学研究分野
  - 環境情報科学研究分野
  - 資源環境科学研究分野
- プロジェクト研究部門
  - 東北アジアにおける大気環境管理スキームの構築研究ユニット
  - 東北アジアにおける地質連続性と「石」文化共通性に関する学際研究ユニット
  - 東北アジア地域の環境・資源に関する研究連携ユニット
  - 東アジアにおける社会変化と文化的持続に関する人類学的研究ユニット
  - 災害人文学研究ユニット
  - 最新科学による遺跡調査ユニット
  - 20世紀ユーラシア史研究ユニット
  - ヒトと地球の相互作用の変遷史に関する研究ユニット
  - 生物多様性と文化の共進化ユニット
- 研究支援部門
  - 学術交流分野
  - 情報拠点分野
    - 海外連携室
    - 企画運営室
- 寄付研究部門
  - 上廣歴史資料学研究部門

人類史的なタイムスケールによる地域理解

大国の統治と民族的多様性からみる地域

越境する多様な問題の理解と共有

文理融合・学際研究

環境と文明の相互作用という視点からの新しい地域研究

東北大学東北アジア研究センターの研究の構成

専門分野（基礎研究部門・寄付研究部門・研究支援部門）

人 文 学	言語学・考古学・歴史学・文化人類学	理　　学	生態学・地質学
社会科学	社会学・政治学・環境政策論・環境経済学	工　　学	資源環境工学・土木工学

プロジェクト研究

環境・資源

- 東北アジアにおける大気環境管理スキームの構築研究ユニット
- 東北アジア地域の環境・資源に関する研究連携ユニット
- 生物多様性と文化の共進化ユニット

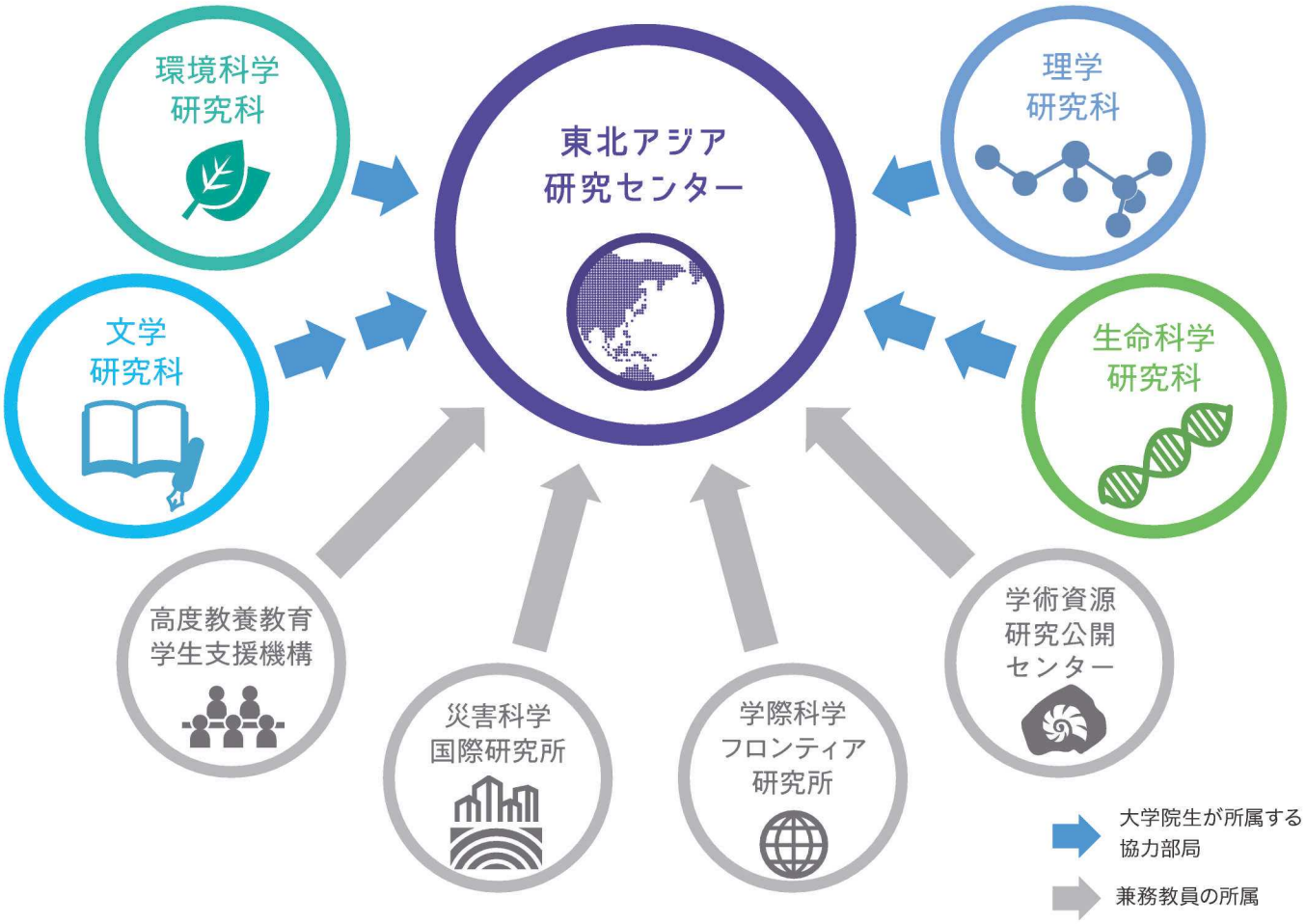
歴史・文化

- 東北アジアにおける地質連続性と「石」文化共通性に関する学際研究ユニット
- 東アジアにおける社会変化と文化的持続に関する人類学的研究ユニット
- 20世紀ユーラシア史研究ユニット
- ヒトと地球の相互作用の変遷史に関する研究ユニット

災害・応用

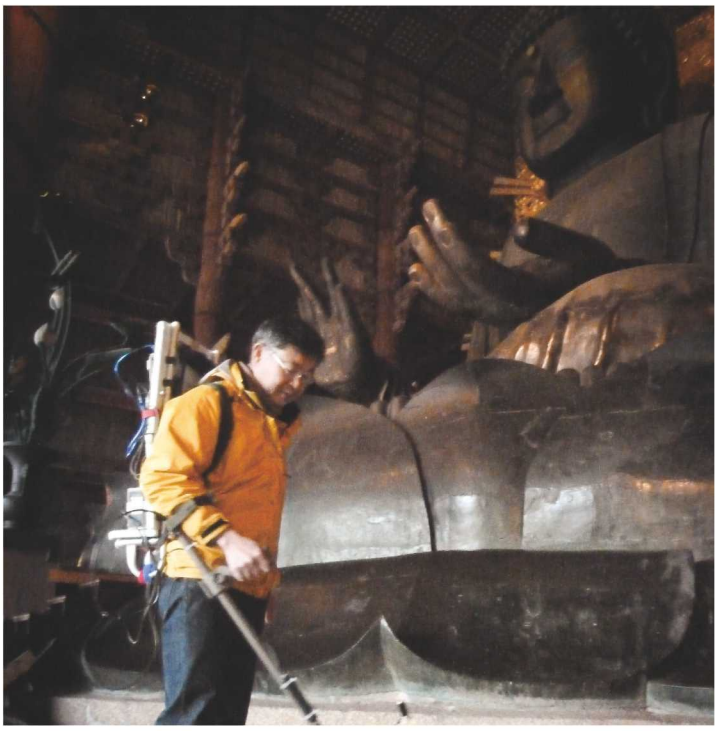
- 災害人文学研究ユニット
- 最新科学による遺跡調査ユニット

東北大学・他部局、研究機関との連携



プロジェクト研究

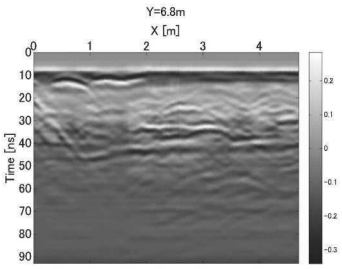
最新科学による遺跡調査ユニット
地中レーダーによる古墳や文化財の調査



東大寺大仏殿での探査

稲荷山古墳(埼玉県)での探査

稲荷山古墳での地中レーダ計測



地中レーダで可視化した稲荷山古墳の内部

20世紀ユーラシア史研究ユニット
東北アジアの歴史を明らかにする

台湾国史館

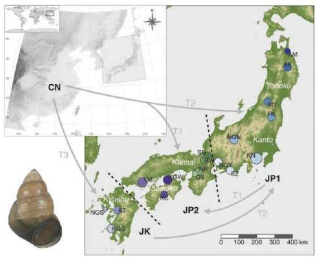
ロシア・極東学術図書館

東北アジア地域の環境・資源に関する研究連携ユニット
東北アジアの環境・資源問題をどう解決するか

凍った川の上を移動するエヴェンキ人の兄弟(ロシア・サハ共和国・オイミャコン)

生物多様性と文化の共進化ユニット
東北アジアの生態系

ロシア極東の森林地帯の調査



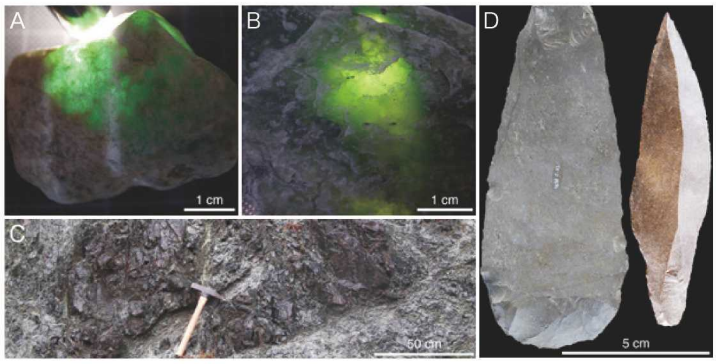
中国から数度にわたり日本に渡来した
ヒメタニシ

中国東北地方の里山と湿地帯

モンゴル遊牧民の移動風景

東北アジアにおける地質連続性と「石」文化共通性に関する学際研究ユニット

石と人間文化



(A) 新潟県糸魚川地域の蛇紋岩に伴って産する硬玉
(B) 台湾花蓮県寿豊郷地域、玉里変成帯の蛇紋岩に伴って産する軟玉
(C) 岡山県新見市、大佐山蛇紋岩メランジュのマトリクスを構成する蛇紋岩の露頭写真
(D) 山形県新庄市高倉山遺跡出土の後期旧石器時代のエンドスクレイパー〔左〕、ナイフ形石器〔右〕

災害人文学研究ユニット

震災が社会と自然にもたらしたもの

山元町の天王様祭の神輿徒行

牡鹿半島の人形様厄払い行事

東アジアにおける社会変化と文化的持続に関する人類学的研究ユニット

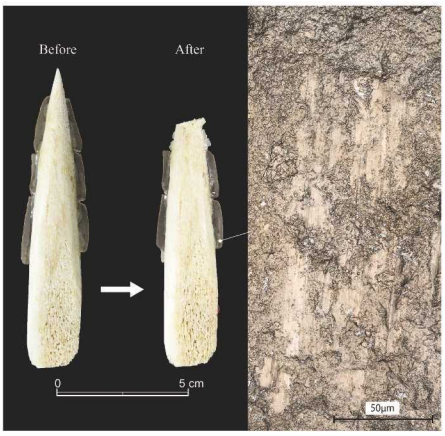
東北アジアの急激な社会変化と文化の持続

観光地で披露される少数民族の舞踊(広東省)

海南島のとある村落の子供たち

ヒトと地球の相互作用の変遷史に関する研究ユニット

先史時代の人類史と地球史との関わり



投射実験によるミクロな狩猟痕跡の分析

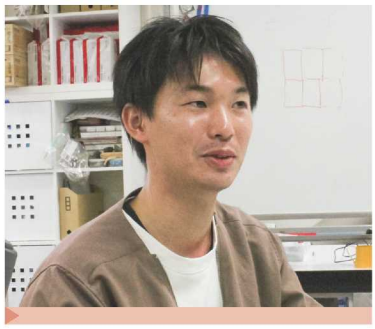
ネアンデルタール人が居住した
ロシア・アルタイのウスチ・カン洞窟

ウスチ・カン洞窟から出土した
ネアンデルタール人の石器

共同研究

研究タイトル	研究代表者
新たな地中レーダー技術による遺跡探査の推進	佐藤　源之
旧石器時代の東北アジアにおける環境への文化的適応	佐野　勝宏
古代・中世日本の周縁地域と東アジアの交流	佐野　勝宏
蔵王山・御釜火口の活動調査	後藤　章夫
グローバル時代の移動制限と在日コリアン	李　仁子
18世紀および19世紀のサハリン・千島アイヌの歴史民族学的研究	遠藤　スサンネ
地質研究資産(標本と紙資料)の持続・発展可能なキュレーション体制の基礎研究	辻森　樹
データ駆動型解析のための「翡翠・ひすい輝石岩」の全岩主要微量元素分析と多変量解析	辻森　樹
東北日本とロシア極東の地質の連続性:東北地方の中古生界地質からの視点	パストルガラン ダニエル
中国における失地農民の社会移動に関する調査研究	滕　媛媛
新型感染症の発生がもたらす社会的格差の拡大:マイノリティグループに着目して	滕　媛媛
東北アジア経済における新たな可能性：物流と環境の視点から	金　丹
ロシア・ソ連の家族・ジェンダー規範とイスラーム的言説の比較研究	磯貝　真澄
Cultural Heritage Preservation Using Radar Technology in Egypt	アハメド アンワー セイドアブデルハミード
多言語絵本の共同制作から探る異文化理解と交流の表現手法	是恒　さくら
ユーラシア遊牧民の地図史	堀内　香里
北極域社会における人間の安全保障に関する方法の探求	高倉　浩樹
震災後のモノ、生業、祭礼の行方：沿岸地域社会の次の10年紀に向けた学際的共同研究	高倉　浩樹
津波カタストロフィーに対する沿岸生物の進化的応答: 岩礁性巻貝をモデルにした形態・集団ゲノム解析	山崎　大志
仙台城の利用実態に関する復元的研究：近世東北地方の城郭比較分析	野本　禎司
震災後における慰霊碑、遺構、遺産に関する国際比較研究	木村　敏明
寒冷地プロジェクトにおける気候不確実性へのレジリエンス	奥村　誠
更新世末から完新世初頭の中国東北地方における環境変動と人類行動	鹿又　喜隆
族譜編纂活動における現代中国人の歴史意識の研究	瀬川　昌久

大学院生の研究活動への支援



修士課程2年

森田 敢

学部時代は理学部で地学を専攻してきました。進学するにあたり、フィールドワークの機会を増やしたいと思い、東北アジア研究センターを選択しました。私の所属する研究室では、大陸形成過程やプレート運動を中心に研究しています。修士論文ではアフリカ大陸のプレート運動をテーマにし、希望通り海外でのフィールドワークや学会発表も実現できました。2020年は残念ながら学外での活動が限られてしまいましたが、その分、コンピューター上での数値シミュレーションや室内実験を行うことで研究活動を充実させることができました。研究室の雰囲気はとても明るく、学生と先生がいつでも気軽に議論できる環境が整っています。さらに文系の研究室との交流も盛んで、理系だけでは生み出せない発見やアイディアを研究に反映させることができるのも研究センターならではの魅力だと思います。

（指導教員：辻森　樹）

博士課程3年

張 小栄

私は内モンゴル出身です。高校の時に日本文化への憧れを抱くようになり、内蒙古大学で日本語や日本史を学んで、「満洲国」の教育政策を研究テーマにしました。東洋史にも日本史にも収まらない課題なので、より広い視野で研究に取り組むためにも、東洋史からのアプローチが有効だと考え、日本の近現代モンゴル史研究者のもとで学べる留学先を希望していました。そこで出会ったのが東洋史を専門とする東北アジア研究センターの岡洋樹教授でした。ここで勉強して、個別の学問領域を越えてものを考えることの大切さを痛感しています。また、母国と日本のものの考え方の違いなどを目の当たりにし、様々なカルチャーショックを感じましたが、その経験は私の研究にとってなくてはならないものでした。研究室のメンバーが大変親切で、研究と生活の両面への様々なサポートもあるため、思う存分研究に集中できます。

（指導教員：岡　洋樹）

博士課程3年

石井 花織

人類は例外なくごみをだしますが、ごみの観念や処理の仕方は気候や文化によって多様です。私の研究対象である北極では海流や大気の循環によって遠方からプラスチックやPCBなどの有害物質が運ばれてくることが問題とされてきました。近年ではそれに加え、気候変動によるダンプサイトの融解や生活の近代化に伴う廃棄物の多様化・増加により、現地で生じる廃棄物の処理が大きな課題となっています。私は文化人類学の研究室に所属し、こうした状況がもたらす人びとへの影響や行動の変化を、現地調査や質問紙等の手法を組み合わせて調査しています。

私の研究テーマは学際的であるため、様々な分野の課題設定・アプローチから学ぶことが多くあります。センターのように、歴史学や考古学、生態学、工学等の学生や若手研究者と気軽に交流できる環境は大変魅力的であり、進学の決め手にもなりました。

（指導教員：高倉　浩樹）

学生支援について

院生室、各自の研究スペースを含め、大学院生の良好な研究環境を提供しています。また学生交流のスペースを設けて、異分野の学生間で積極的な交流を進めています。外部研究資金である人間文化研究機構事業、北極域研究事業（文科省補助事業）などでリサーチ・アシスタントとして雇用するなど、大学院生の経済的支援もおこなっています。また日本学術振興会特別研究員DCや、海外留学のためのグラントへの応募を、教員が積極的に支援しています。

最近の進路情報について

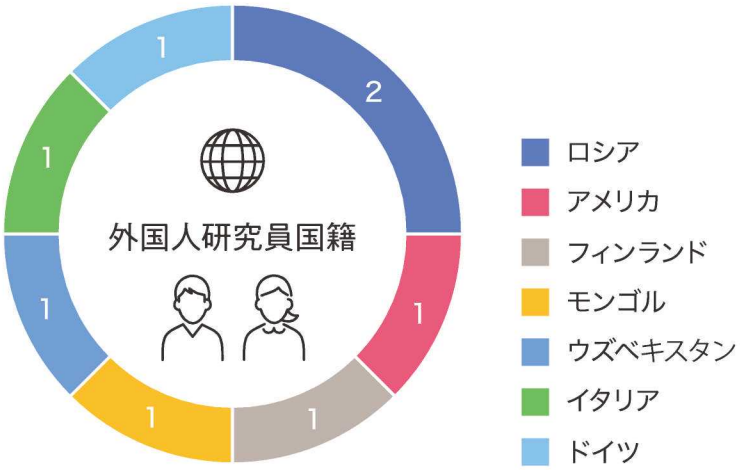
修士課程修了者：民間企業（IT、金融、環境コンサルタント、食品、製薬など）、海外留学、博士課程進学。

博士課程修了者：大学教員（東北大学、京都大学、山口大学、尚絅学院大学、鹿児島大学、フィリピン大学、蒙古民族大学など）、公立研究機関研究員（国立アイヌ民族博物館、防衛省防衛研究所、産業技術総合研究所など）、民間企業（電子機器、製薬、IT、環境コンサルタントなど）、そのほか日本学術振興会特別研究員、海外留学など。

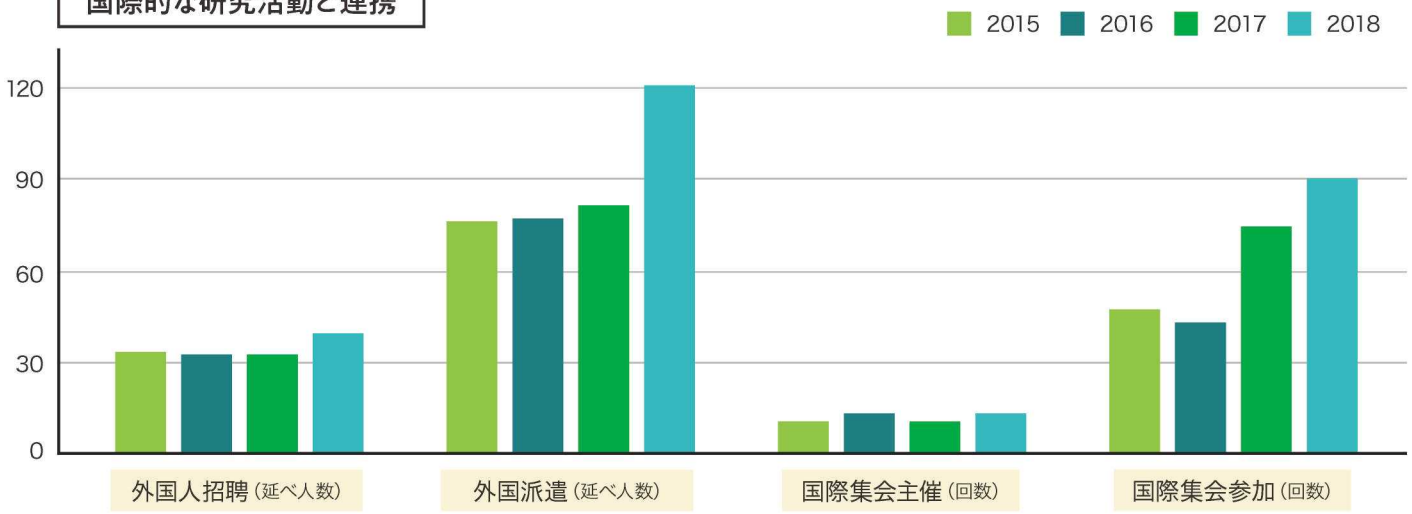
国際交流と大学院生・若手研究者

▲若手研究者の国際交流

センター所属の外国人研究員



国際的な研究活動と連携



所属教員

基礎研究部門

ロシア・シベリア研究分野

教　授　寺山 恭輔
教　授　高倉 浩樹
助　教　磯貝 真澄
兼務教員・教授　鹿又 喜隆
兼務教員・講師　遠藤スサンネ

モンゴル・中央アジア研究分野

教　授　岡 洋樹
教　授　佐野 勝宏
准教授　柳田 賢二

中国研究分野

教　授　瀬川 昌久
教　授　明日香 壽川
准教授　上野 稔弘

日本・朝鮮半島研究分野

准教授　デレーニ アリーン
准教授　石井 敦
准教授　程 永超
兼務教員・准教授　加藤 諭
助　教　宮本 毅

地域生態系研究分野

教　授　千葉 聡
助　教　平野 尚浩

地球化学研究分野

教　授　辻森 樹
准教授　平野 直人
助教　後藤 章夫
兼務教員・教授　中村 美千彦
兼務教員・助教　パストルガラン ダニエル

地域計画科学研究分野

兼務教員・教授　奥村 誠

資源環境科学研究分野

教授　佐藤 源之
助教　菊田 和孝

● 東北アジア研究センターまでは仙台市地下鉄東西線「川内」駅（南1出口）をご利用下さい。

東北大学 東北アジア研究センター

〒980-8576　宮城県仙台市青葉区川内41番地
TEL (022) 795-6009　FAX (022) 795-6010

http://www.cneas.tohoku.ac.jp